

第 23 回「北東アジア交流の翼 in しまね」開催！！

1 概要

コーディネート自治体である島根県では、令和 7 年 8 月 22 日から 27 日まで、「北東アジア交流の翼 in しまね」を開催した。

このプログラムは、北東アジア地域の青年が島根県に集い、滞在期間中に、意見交換や日本文化体験、ホームビジット体験などを行うもので、国を越えて相互理解と友好を深め、将来につながる新しいネットワークを築いていくリーダーの養成を目的として毎年開催している。

2002 年から開始し、今年で 23 回目を迎え、これまでに約 600 名の青年が参加してきた。今回は、韓国、中国から計 11 名、ホスト役として島根県から 7 名、あわせて 18 名の参加があった。

毎回、北東アジア地域における共通課題をテーマとして設定し、そのテーマに因んだ交流を行っている。近年 SDG s の関心が高まる中、世界の誰一人取り残されることなく、人間らしく暮らし続けていくためには、どのように取り組むことが必要なのか。今回は海の環境保全に着目して、青年たちに若者らしい考察と提言を求めることにした。

2 内容

8 月 22 日、開会セレモニーでは、冒頭、NEAR 林秉鎮 事務総長から動画による祝辞で、「急変する国際情勢の中においても、我が連合は、交流と協力、そして共通の繁栄という創設の価値を堅持し、地域の安定と平和の実現に努めてきた。本日の行事も、そのような取組みの一環であり、北東アジアの若者たちが互いの考えを尊重し、多様性を理解しながら、この地域のより良い未来をともに築いていくための貴重なつながりを育んでいただきたい。そして皆さんが、地域と世界を結ぶ優れたリーダーへと成長される大きな礎となることを期待している。」と参加した学生たちへの激励があった。



交流の翼、いよいよ始まる！！（開会セレモニー）

23 日には出雲大社周辺の散策、24 日にはホームビジットを体験した。特に、ホームビジットでは、訪問する外国青年とホストファミリー双方の意向調査を踏まえて、一人一人が異なるホームビジットを体験した。島根の人たちの温かさ、生活文化、習慣に触れる特別な時間となった、木々が多く、海は広く、空は青く、環境が良い、島根の自然やまち並みが好き、また訪れたいなど様々な声が聞かれた。島根の身近な風景や島根の普通の家庭の雰囲気を楽しむ良い機会となった。



出雲大社 鳥居前で



名物「出雲そば」をいただきます！！



一緒に習字に挑戦！！(ホームビジット)



ホストファミリーと一緒にパチリ！！
(世界遺産「石見銀山」龍源寺間歩)

25 日から、今回のテーマである「海の環境保全」の活動を行った。「百聞は一見に如かず」、早朝、出雲市内のひろげ浜の海岸を歩きながら、実際にどのような海洋ごみが漂着しているかなど現状を確認した。外国からのごみも多く、海の環境保全が各国共通の課題である「気づき」となった。



足元には海洋ごみがたくさん(ひろげ浜)



今回は、初めての試みとして、環境保全等のクラブ活動をしている出雲西高等学校の生徒との共同企画にチャレンジした。冒頭、出雲西高生主導で自己紹介やゲーム、クラブ活動の紹介があり、和やかな雰囲気での交流が始まった。地元高校生と共同で活動したおかげで、生徒たちが日頃取り組んでいる海岸清掃ボランティアの活動の話を聞くことができ、日常的な奉仕活動の大切さを実感する機会となった。これまでのやり方にこだわらず、柔軟に対応した点が功を奏した。

その後、高校生と一緒に、「海洋ごみについて考えてみよう」をテーマに島根県廃棄物対策課から講義を受けた。なぜ海洋ごみが各国に漂着するのか、海洋ごみがもたらす影響はどのようなことがあるのか等、現状を学んだ。

また、海洋ごみだったペットボトルキャップを再利用してアクセサリづくりに挑戦した。ごみの再利用の仕組みを学び、グラデーションのあるカラフルな自分だけのアクセサリを作った。



講義風景



細かくしたキャップをアクセサリの型へ



完成！！

その日の夕食はバーベキュー。暑い中、お互い協力して炭火を起こして汗だくとなったが、きれいな夕日を眺めながら語り合いバーベキューしたこと、また、食後、仲間たちと一緒に海岸で見上げた花火はきっと忘れられない思い出となったことだろう。



暑い中、美味しくいただきました(^▽^)/

26日は、前日の講義や体験をもとに、外国青年と島根青年のグループディスカッションである。

グループ毎に異なる視点から「海の環境保全」に向けて、どのようなことができるかを発表し、意見を交わした。海洋ごみ処理・海洋資源保護・海洋汚染対策などの現状を整理し、課題に対する解決策をまとめた。法律の制定や罰金・逮捕などの刑罰を設けてはどうか、3か国共同でリサイクル推進のルールをつくろうなど様々な対策が提案された。海の環境保全を3か国の共通課題として捉えるとともに、日々の生活の中で、ごみの削減や使い捨てプラスチックの使用を控えるなど、一人一人ができることから始めようと決意を新たにした。



議論白熱！！(グループディスカッション)



いざ、発表！！

青年たちにとって、このプログラムは、長いようであっという間の充実した6日間となったようだ。

この出会いや経験は、彼らにとって、次のステップにつながる大きな成果となったことと思う。さらに、彼らが、これからの新しい時代を切り開いて、将来の北東アジア地域を担うリーダーとなってくれるものと期待している。